

第 3 章 調査項目

第3章 調査項目

3.1 環境影響要因の把握

「第2章 対象事業の目的及び概要」において示した事業内容に基づき、環境に影響を及ぼすおそれのある要因を抽出した。

工事中における環境に影響を及ぼすおそれのある要因としては、建設機械の稼働、資材運搬等の車両の走行、造成等の工事があげられ、供用時における環境に影響を及ぼすおそれのある要因としては、造成地・施設の存在、施設の稼働、廃棄物運搬車両等の走行があげられる。

本事業の実施に伴う環境影響要因は、表 3-1 に示すとおりである。

表 3-1 本事業の実施に伴う環境影響要因

影響を及ぼす時期	影響要因の区分	環境影響要因
工事中	工事	建設機械の稼働 資材運搬等の車両の走行 造成等の工事
供用時	存在・供用	造成地・施設の存在 施設の稼働 廃棄物運搬車両等の走行

3.2 環境影響評価項目

環境影響評価項目は、対象事業の特性と周囲の自然的、社会的状況を勘案し、「埼玉県環境影響評価技術指針」に示す「工場・廃棄物処理施設・下水道終末処理場」における環境影響要因と調査・予測・評価の項目との関連表に準拠して選定した。

本事業においては、表 3-2 に示すとおり、大気質、騒音・低周波音、振動、悪臭、土壌、動物、植物、生態系、景観、自然とのふれあいの場、電波障害、廃棄物等、温室効果ガス等の13項目を選定した。

表 3-2 環境影響要因及び調査・予測・評価の項目との関連表

事業の種類		廃棄物処理施設						
影響要因の区分		工 事			存在・供用			
環境影響要因		建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	造成地・施設の使用	廃棄物運搬車両等の走行		
							調査・予測・評価の項目	調査・予測・評価の項目
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	●	●		●	●	
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物				●	●	
		浮遊粒子状物質				●	●	
		微小粒子状物質				●	●	
		炭化水素					●	
		粉じん	●	×			×	
		水銀等(水銀及びその化合物) その他の大気質に係る有害物質等				●		
	騒音・低周波音	騒音	●	●		●	●	
		低周波音				●	●	
	振 動	振動	●	●		●	●	
		臭 臭	臭気指数又は臭気の濃度 特定悪臭物質				●	
	水 質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量				×	
			浮遊物質				×	
			窒素及び燐				×	
			水温					
			水素イオン濃度				×	
			溶存酸素量				×	
			その他の生活環境項目				×	
		健康項目等				×		
		底 質	強熱減量					
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量					
	底質に係る有害物質等						×	
	地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目					×	
	水 象	河川等の流量、流速及び水位						
		地下水の水位及び水脈						
		温泉及び鉱泉						
		堤防、水門、ダム等の施設						
	土 壤	土壌に係る有害項目					●	
	地 盤	地盤沈下						
	地 象	土地の安定性						
地形及び地質(重要な地形及び地質) 表土の状況及び生産性					×			
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動 物	保全すべき種		●		○		
		保全すべき種				○		
	植 物	植生及び保全すべき群落				○		
		緑の量				×		
生態系	地域を特徴づける生態系		●		○			
人と自然との豊かなふれあいの場の確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景 観	景観資源(自然的景観資源及び歴史的景観資源)				×		
		眺望景観				●		
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場		●		○	○	◎
	史跡・文化財	指定文化財等				×		
		埋蔵文化財等				×		
	日照障害	日影の状況				×		
	電波障害	電波受信状況				○		
	風 害	局所的な風の発生状況						
	光 害	人工光又は工作物による反射光						
	環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物				◎	●
残土						◎		
雨水及び処理水								
温室効果ガス等		温室効果ガス オゾン層破壊物質	●	●		●	●	
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量	×	×				

注) ●:標準的に選定する項目
◎:標準外項目であるが事業特性、地域特性等を考慮して選定する項目
○:事業特性、地域特性等を考慮して選定する項目
×:標準的に選定する項目及び事業特性、地域特性等を考慮して選定する項目のうち、今回選定しない項目

3.3 項目選定の理由及び根拠

本事業における調査・予測・評価の項目として選定した理由は表 3-3(1)、(2)に、選定しない理由は表 3-4 に示すとおりである。

表 3-3(1) 調査・予測・評価の項目及びその選定理由

調査・予測・評価の項目		影響要因の区分	選定した理由
大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	工事中	建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う二酸化窒素又は窒素酸化物の発生が考えられるため、選定する。
		存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う煙突からのばい煙及び廃棄物運搬車両等の走行に伴う排ガスによる二酸化窒素又は窒素酸化物の発生が考えられるため選定する。
	二酸化硫黄又は硫黄酸化物	存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う煙突からのばい煙による二酸化硫黄又は硫黄酸化物の発生が考えられるため選定する。
	浮遊粒子状物質	存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う煙突からのばい煙及び廃棄物運搬車両等の走行に伴う排ガスによる浮遊粒子状物質の発生が考えられるため選定する。
	微小粒子状物質	存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う煙突からのばい煙及び廃棄物運搬車両等の走行に伴う排ガスによる微小粒子状物質の発生が考えられるため選定する。
	炭化水素	存在・供用時	廃棄物運搬車両等の走行に伴う排ガスによる炭化水素の発生が考えられるため選定する。
	粉じん	工事中	建設機械の稼働に伴う粉じんの発生が考えられるため選定する。
	水銀等(水銀及びその化合物)	存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う煙突からのばい煙による水銀等(水銀及びその化合物)の発生が考えられるため選定する。
大気質に係る有害物質等	存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う煙突からのばい煙による有害物質等(塩化水素、ダイオキシン類)の発生が考えられるため選定する。	
騒音・低周波音	騒音	工事中	建設機械の稼働に伴う建設作業騒音、資材運搬等の車両の走行に伴う道路交通騒音の発生が考えられるため選定する。
		存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う工場騒音、廃棄物運搬車両等の走行に伴う道路交通騒音の発生が考えられるため選定する。
	低周波音	存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う低周波音の発生が考えられるため選定する。
振動	振動	工事中	建設機械の稼働に伴う建設作業振動、資材運搬等の車両の走行に伴う道路交通振動の発生が考えられるため選定する。
		存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う工場振動、廃棄物運搬車両等の走行に伴う道路交通振動の発生が考えられるため選定する。
悪臭	臭気指数又は臭気の濃度	存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う悪臭の発生が考えられるため選定する。
	特定悪臭物質	存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う悪臭の発生が考えられるため選定する。
土壌	土壌に係る有害項目	存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う煙突からのばい煙による有害物質(ダイオキシン類)の土壌への沈降、蓄積のおそれがあるため選定する。

表 3-3(2) 調査・予測・評価の項目及びその選定理由

調査・予測・評価の項目		影響要因の区分	選定した理由
動物	保全すべき種	工事中	建設機械の稼働、資材運搬等の車両の走行、造成等の工事による保全すべき種の生息環境の変化が考えられるため選定する。
		存在・供用時	廃棄物処理施設の存在による保全すべき種の生息環境の変化が考えられるため選定する。
植物	保全すべき種、植生及び保全すべき群落	存在・供用時	廃棄物処理施設の存在による保全すべき種の生育環境の変化が考えられるため選定する。
生態系	地域を特徴づける生態系	工事中	建設機械の稼働、資材運搬等の車両の走行、造成等の工事により、地域を特徴づける生態系の変化が考えられるため選定する。
		存在・供用時	廃棄物処理施設の存在により、地域を特徴づける生態系の変化が考えられるため選定する。
景観	眺望景観	存在・供用時	廃棄物処理施設の存在により、周辺地域からの眺望景観の変化が考えられるため選定する。
自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場	工事中	建設機械の稼働、資材運搬等の車両の走行、造成等の工事により、自然とのふれあいの場の利用環境の変化が考えられるため選定する。
		存在・供用時	廃棄物処理施設の存在及び稼働、廃棄物運搬車両等の走行により、自然とのふれあいの場の利用環境の変化が考えられるため選定する。
電波障害	電波受信状況	存在・供用時	廃棄物処理施設の存在による電波受信状況の変化が考えられるため選定する。
廃棄物等	廃棄物	工事中	造成等の工事に伴う建設廃材等の廃棄物の発生が考えられるため選定する。
		存在・供用時	廃棄物処理施設の稼働に伴う廃棄物の発生が考えられるため選定する。
	残土	工事中	造成等の工事に伴う残土の発生が考えられるため選定する。
温室効果ガス等	温室効果ガス	工事中	建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う温室効果ガス(二酸化炭素等)の発生が考えられるため選定する。
		存在・供用時	廃棄物施設の稼働及び廃棄物運搬車両等の走行に伴う温室効果ガス(二酸化炭素等)の発生が考えられるため選定する。

表 3-4 調査・予測・評価の項目として選定しない理由

調査・予測・評価の項目		影響要因の区分	選定しない理由
大気質	粉じん	工事中	資材運搬等の車両はタイヤ洗浄を行い、車輪・車体に付着した土砂等を十分除去した後に退出すること、計画地周辺の主要な走行経路はいずれも舗装道路であることから、資材運搬等の車両の走行に伴う粉じんの発生は想定されないため選定しない。
		存在・供用時	計画地内の走行経路及び周辺地域の主要な走行経路はいずれも舗装道路であることから、廃棄物運搬車両等の走行に伴う粉じんの発生は想定されないため選定しない。
水質	生物化学的酸素要求量又は科学的酸素要求量	存在・供用時	廃棄物処理施設からの排水は、再利用あるいは炉内噴霧処理を行うことから本施設からの排水は発生しない。また、生活排水は公共下水道に放流を行うことから、施設の供用に伴う水質への影響は想定されないため選定しない。
	浮遊物質		
	窒素及び燐		
	水素イオン濃度		
	溶存酸素量		
	その他の生活環境項目		
	健康項目等		
	底質に係る有害物質等 地下水の水質に係る有害項目		
地象	地形及び地質(重要な地形及び地質)	存在・供用時	計画地は川本春日丘工業団地として造成された平坦地であり、本事業では計画地内の部分的な掘削に留まり、計画地及びその周辺には、重要な地形及び地質は存在しないため選定しない。
植物	緑の量	存在・供用時	計画地は緑の量が問題となるような都市的地域ではなく敷地面積の20%以上の緑地を確保する計画であることから選定しない。
景観	景観資源(自然的景観資源及び歴史的景観資源)	存在・供用時	計画地及びその周辺には、計画地周辺を眺望対象とする景観資源が存在しないため選定しない。
史跡・文化財	指定文化財等	存在・供用時	計画地及びその周辺には、指定文化財及びそれに準ずる史跡・文化財等は存在しないため選定しない。
	埋蔵文化財等	存在・供用時	計画地内には、縄文時代以降の集落跡である「北篠場Ⅱ遺跡」及び「円阿弥遺跡」が存在している(P.175～176参照)。しかしながら、計画地は川本春日丘工業団地として造成された土地であり、その造成時に「北篠場Ⅱ遺跡」及び「円阿弥遺跡」に対する記録は行われている。本事業では、工事の実施前に届出を行うため、埋蔵文化財への影響は想定されないことから選定しない。
日照障害	日影の状況	存在・供用時	計画地及びその周辺は工業団地として造成・供用されており、周辺に住宅等は存在しないため選定しない。
温室効果ガス等	オゾン層破壊物質	存在・供用時	フロン等のオゾン層破壊物質を含む廃棄物を処理する計画はなく、フロン等が発生する恐れはないと考えられるため選定しない。
放射線の量	放射線の量	工事中	計画地周辺における空間放射線量の測定結果は低い値で推移しており、放射線の量の影響はないと考えられるため選定しない。